



「緑と湧水の保全に更なる努力を」

和光市環境づくり市民会議

会長 峯岸正雄

当会議は和光市と協働して、和光市環境基本計画及び実行計画を推進・実行すると共に、これらに関する提言・点検・評価を行っています。昨年実施した平成27年度環境施策実施状況を概ね適切と判断しました。これは各施策項目を所管する部署が市の厳しい財政状況や行政全般の効率化等様々な課題を抱える中で、現行の第2次環境基本計画実行計画【改訂版】の着実な進捗を目指して取り組んだ結果と考えます。

しかしながら、最重要な緑と湧水の保全に関しては、「白子宿特別緑地保全地区」の指定といった成果が挙がっていますが、依然として課題を残しています。平成21年3月に策定された和光市緑地保全計画では将来にわたり保全すべき緑地や湧水地を定め、その第6章で財源の確保策について (1)市の年度予算による対応、(2)専用の基金の設立、(3)トラスト制度など市民の募金による協力を得るもの、(4)土地開発公社の活用、(5)国・県の補助金(古都及び緑地保全の補助金、公園整備の補助金など)の活用等を列挙し、それらを平成21、22年度にわたり総合的に検討の上、平成23年度より実施に移すとしています。

長期の保全対象である緑地や湧水地は当市にあってほとんどが私有地であり、千載一遇の公有地化の機会を確実に活かすには財源の確保策が欠かせません。和光市は“みんなでつくる快適環境都市わこう”や“市民憲章の1. 私たちは、緑をふやし、きれいなまちをつくります。”とのスローガンのもと進めています。市の財政事情は厳しい状況ではありますが、知恵を絞って一步でも前進を切に願うものです。

就任あいさつ

和光市市民環境部長 中蔦 裕猛

平成29年4月より市民環境部長に就任いたしました中蔦です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。就任に当たり環境行政についての抱負を申し上げたいと思います。

本市は都心から約19kmに位置し、東京都に隣接しているにもかかわらず、武蔵野台地の末端に残る湧水や斜面林、点在する屋敷林・社寺林など多くの自然環境に恵まれております。

また、平成27年度に実施した市民意識調査においても、公園・緑地の整備状況についての満足度は、61.4%と高い満足度となっております。

これらの残された貴重な自然環境を保全し、次世代を担う子どもたちに引き継いでいくため、市の環境行政の根幹を成す第2次和光市環境基本計画(改訂版)に基づく各種施策の推進に取り組み、様々な課題と向き合っていきたいと考えております。

就任あいさつ

和光市市民環境部 環境課長 亀井義和

平成29年4月の人事異動により、環境課長になりました亀井と申します。どうぞよろしくお願ひします。

和光市の環境行政の基本となる和光市環境基本条例に基づき、環境基本計画を策定し各環境施策を実施しておりますが、平成27年

度に「第2次和光市環境基本計画改訂版」を、昨年度にはそれを具体的取組みとして進めていくための実行計画を和光市環境づくり市民会議の皆様とともに、市民目線で策定できたことは大変意義深いものと感じています。

また、昨年度は和光市の貴重な自然環境を後世に伝えていくために、動植物や緑地、湧水地などを掲載した「和光市自然環境マップ」を環境課の行政提案型協働事業として、市民活動団体のご協力のもと作成しました。今年度はそれを環境課や市民活動団体が主催・共催する各種イベントで配布・説明することや、学校教育での活用に加え、自分の住む地域をより深く知り地域に愛着を持つとともに、その地域をさらに良くしていこうとするひとつの方策として、社会教育（生涯学習）との連携による環境学習に取り入れられるよう、努めていきたいと考えています。

### 「和光自然環境マップの出版」

高橋絹世（NPO 法人和光・緑と湧き水の会）



「和光自然環境マップ」の作成は、和光市環境課より2016年度の市民との協働事業として提案され、NPO 法人和光・緑と湧き水の会が、応募・参画して、2017年2月に出版することができました。A2版両面カラー印刷で、表面の左半分に和光市の地図を配し、32カ所の緑地・湧水地の所在を示しました。そのうちの15カ所を選び、表面の右半分に、写真と共にその場所や植生の特徴などを記述しました。

裏面には、「和光の四季」、「地形と地質・湧き

水の仕組み」、「身近な自然保護」、「白子川と越戸川」、「貴重な野草」、「和光のカタクリ」、「和光の小さな生き物たち」、および「和光の樹木と緑地」の8項目についてビジュアルな説明を載せました。

これらの内容は、和光・緑と湧き水の会の十数年にわたる「身近な自然を知り、守り、活かす活動」を基に、特に、2014年度の環境課と当会の協働事業「和光市湧水環境調査」の成果を反映させた内容です。多くの市民の方に楽しみながら和光の自然環境についての理解を深めて、その身近な自然を次世代に残していきたいとの願いを込めました。皆さんの散策のお供や、学校での地域や環境学習にご利用いただければ幸いです。

入手ご希望の方は、環境課または湧き水の会にご連絡ください。

### 「和光自然環境マップの利用」

高橋勝緒

こんな「和光自然環境マップ」ができました。

3月12日には、マップの完成記念として「早春の和光散歩・自然と歴史を訪ねて」の説明・散策会を行いました。

マップを使って、中央公民館で和光の自然の特徴を説明し、公民館から白子地区の緑地・湧水を往復して和光市の代表的な自然環境を体感してもらいました。マップについての感想としては、表面の地図から、市内に緑地などがたくさんあること、裏面の説明が読みやすいとのことでした。実際に散策して、白子地区の湧水が豊富なこと、その湧き水の仕組みが見られる地層などが印象的だったなど、和光市の自然とその案内マップが好評でした。

四季折々で変化する自然については、マップでは多くを記述できません。是非実際に歩いてその時々を楽しんでください。これからは、小学校などでの利用が進み、身近な自然の大切さが伝わることを期待しています。

## 「環境破壊」

和光市環境づくり市民会議

副会長 芝 勝治

地元で湧き水の水質、生物の生育調査、森林公園、池、井戸など市の環境保全のボランティア活動を行っている。一度破壊された自然環境を取り戻す事は大変なことである。同じように正しい日本語が破壊されている。「大きい」というのを「デカイ」といったり、「ヤバ」、「マジ」、「オツカレー」など意味不明の言葉が乱れ飛んでいる。また自分の妻を「奥さん」といったり、「全然いいです」、「耳障りのいい音」、「お疲れさま」の使い方など言葉の意味を知らずに使っている。これはテレビのCM、タレントやアナウンサーの影響が大きいと思う。女らしさ、女性らしい言葉があり、男性言葉もあります。今、外国人観光客が増えており、和食や日本文化が人気です。正しい日本語も伝え覚えてほしいと思います。

一度乱れた日本語を取り戻す事は大変なことです。放送関係に携わる方々に是非お願いしたい。自然とは何か？手を加えない、成り行きに任せておくべきなのか？環境破壊という言葉も難しいものである。

## 「自然・環境について」

新井昭夫

「自然」という言葉は、突然や、偶然と同じように、「自ら(みずから)、然る(しかる)」という、状態を表す副詞であった。現在のような意味での自然を言い表す場合は、「山河」などという具象名詞が使われていた。また、「環境」とは「人間のまわりのところ」で、人間が真ん中にいて、人間以外の万物が、そのまわりにある、との事を、最近、本で読みました。人間は、安心・安全を求めて、知恵と創意の結晶である先進のテクノロジーで、自然環境に働きかけ、自然環境を改変することによって、その安心・安全を実現できる。しかし、そこに、思わぬ盲点があって、これまでの自然環境を失ってしまう。この盲点の問題の解決を、新たなテクノロジーによって克服しようとする。一難去って、又、

一難。テクノロジーの発達と、それによる問題解決は、さながらエンドレスである。2017年3月の環境づくり市民会議で、環境課より、「地球温暖化対策実行計画」の説明をいただいた。その実行計画の中で、「みどりあふれる和光市2050」というテーマで、小学生が描いた絵が沢山掲載されていた。33年先の和光市の自然環境が、この実行計画の冊子の表紙に掲載されている。「青空と入道雲と、ひまわりと蝶々、そして網を持って麦わら帽子を被った子供の姿」が描かれている。2050年の和光市の自然環境がこのように穏やかなものであって欲しいと願う。

## 「ワンコイン緑化」

渡辺 康三

埼玉県より自動車税通知書が送られてきました。恥ずかしながら、封入物を見るのは初めてでしたが、中に「みどりの再生結果報告書」の印刷物が入っていました。「彩の国みどりの基金」の仕組み等の内容でした。以前、市民会議でもこの基金について取り上げたことを思い出しました。

①基金の原資は自動車税の1.5%相当額に寄付金をプラスし約15億円とのこと、1台あたり約500円になります。

②平成28年度の主な成果は①みどりの再生1,260ha ②園庭・校庭の芝生化(深谷市・本庄市) ③駐車場緑化(熊谷市) ④水源地域の森づくり(寄居町)

③平成20年から28年度の再生実績 ①森林の整備・保全、8,980ha ②身近なみどりの保全・創出 448ヶ所 ③県民運動の展開事業補助数 542団体

埼玉県みどり自然課に問いあわせたところ、埼玉県南西部の事業成果は新座市の小学校2カ所を芝生化した実績があるだけとのことでした。平成29年度まで私は10コイン協力??、別の形で緑の保全・再生に少しでも役立つようにがんばります。

## 「多くの人と環境について考えたい」

小林新

私は県内の大学で1年生を対象に「化学」の非常勤講師をしています。毎年100名を超える学生が入学し、初年度に必修科目として授業に参加することになります。私の講義では新入生が大学生活に慣れた7月に「環境問題」に関する講義を必ず入れています。

講義の内容は地球温暖化問題を始めとして、環境全般にわたるように広く浅くの話提供を行っています。地球の二酸化炭素の増加を経年的に示すグラフ、地球のいたるところで氷河が減少している写真、ハリケーンによる橋梁破壊の現状など、外務省主催によるODA現地視察旅行に参加した際に自分で撮影した写真なども含めて視覚的に説明しています。

さらに身近にできるエコライフとして埼玉県地球温暖化防止活動推進センターが作成した「エコライフ DAY チェックシート」を配布し、個人で減らすことができる二酸化炭素量について説明しています。学生にとってはこのような内容は目新しいようで、興味を持って聴いてくれます。定期試験に地球温暖化防止にできることを自由記載する設問を出すといろいろな意見が出てきます。若い学生さんが将来環境問題に少しでも興味を持ってもらえればと思っています。

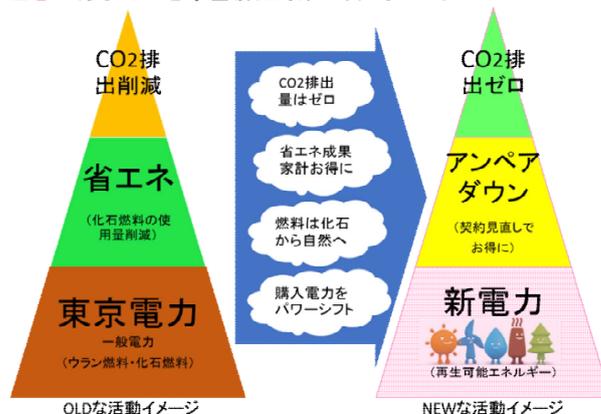
また加入している地域の研修旅行では、廃材を利用した発電所の見学を企画するなどして、みんなで環境問題を考える機会を作っています。

和光市環境づくり市民会議、埼玉県地球温暖化防止活動推進員や和光市地球温暖化対策委員会の委員としても微力ながら多くの人に環境問題に興味を持ってもらえるような活動をしていこうと思っています。

## 「今日も自然エネルギーと生きるご家庭が増えています」

中川善樹

注意！あなたの地球温暖化対策は古くなってませんか



あの3. 11 東日本大震災以後、「暮らしの電気に原発はいらない。太陽光発電など自然エネルギーの電気を使いたい」とするご家庭や事業者が増えています。さらに、温暖化防止のためエコな生活として住宅の断熱や省エネ家電の買換えなどエコが進んでおりますが、その努力の成果を家計に取り込めていないご家庭をよく見かけます。

いろいろなエコな活動で節電されたのですからご家庭で契約の電気の「アンペア」を下げて基本料金を安くして電気料金を下げることが効果的です。さらに、化石燃料を主体とする一般電力会社を契約されている方は「自然エネルギー重視の新電力会社」に切換をお奨めします。

最近の事例を紹介します。3人家族のご家庭で東京電力の契約が50Aでしたが、一日で最も電気を使う時間帯で使うアンペアは30A以下が確認されました。同時に契約変更ではCO2排出が少ないかCO2を排出しない新電力会社（Greena でんき）を選びました。とても簡単に契約変更できて、来月より契約は30Aですから基本料金は月約800円安くなり電気料金全体では年間約11,000円安くなりそうです。さらにCO2排出量は年間2071kgCO2が「驚きのゼロ」になり地球温暖化防止の活動に貢献できて大変喜ばれています。みなさまもご検討頂ければ幸いです。

## 「太陽光発電の2019年問題」

松田 廣行

### 1) 2019年問題とは？

2年後の2019年、太陽光発電を導入した際に電力会社と交わした(固定買取制度=売電)契約が満了する人が出てくるということです。

太陽光発電からの電力買取(売電)単価の変遷は、大まかに言うと表のようになっています。

2009年以前は、太陽光発電設備を導入し系統連係をした家庭から、余剰電力分を系統電力と同程度(約24円)で電力会社が自主買取っていたが、2009年(平成21年11月より実施されたFIT法)から、48円で10年間買い取るという法律で、買い取り価格48円は、年度によって低下してきています。日本において太陽光発電からの売電を制度的に定めたのは2009年が最初で2009年以降2012年までは住宅・家庭用で比較的高い売電料金が設定されていたため、世界と比較して日本は住宅用太陽光発電において特に普及の進んだ国の一つと言えます。全体の設備容量を大きく増やすきっかけとなったのが、2012年(平成24年度)から始まった産業・事業用の太陽光発電固定価格買取制度です。これがきっかけとなってメガソーラをはじめとする大規模発電所が急速に増えたのです。FIT法が施行し10年経過する2019年以降はどうなるか。巷間でささやかれているのが、①電力会社は買わない。②10円ぐらいで買取る(新電力の電力卸価格とか)。

### 2) 2019年問題への対策は？

発電した電力を電力会社が買取らないなら、電力会社なんか当てにしないことです。自分で使う電力は自分で賄うわけですが、太陽光発電は太陽が出ている時間しか当てになりません。太陽が出ている時間に充電した電気を使うという覚悟です。日没から日の出までをバッテリーでしのぐということです。太

陽光パネルは出力350ワットが数万円から手に入るのになんとかなるかなあ。

年	買取価格と期間
2010	48円・10年間
2011	42円・10年間
2012	42円・10年間
2013	38円・10年間
2014	37円・10年間
2015	35円・10年間
2016	33円・10年間



## 「プラスチックのリサイクル」

友國 洋

容器包装リサイクル法の施行から20年を経て、ゴミの分別は定着したと実感する。家庭から出るゴミの6割（容積比）が容器包装だという。アルミ缶、スチール缶、段ボール、紙パックは同法ではリサイクル義務の対象でなく、新聞紙も対象外だが、これらは有価物として以前から回収ルートができていた。

問題はプラスチックであるがよく見えない。「汚れた弁当がらは、軽く洗って出すこと」になっているが、燃やすものに水道水を使つてはエコにならないと思ってしまう。

プラスチックは素材も用途も多種多様で、家庭、産業を問わずあらゆる分野に及んでいる。武田邦彦氏は、2000年に出た著書の中で、ペットボトル、紙のリサイクルに意味はないと説いている。ペットボトルはリサイクル（再生）するのにエネルギーを使いすぎる。当時3倍の経費（特に運送費）がかかるということであった。あれから17年、エネルギー事情は様変わりしているが、プラスチックリサイクルは分かりにくい。中でもペットボトルはアルミ缶やスチール缶のように有価物として扱われないように見える。

国の審議会では、現在容器包装プラスチックをガス化して発電している事業所（製鉄会社の関係会社）がこれを更に進化させ水素ガス製造するという議論がされている。

ゴミ利用発電所は既に各地で稼働して久しい。技術革新によって焼却炉や発電設備も高性能化していると思う。東京都ではプラスチックを焼却しているというが、当然、発電が前提だと思われる。

## 「地球温暖化対策（その2）」

東亮太

パリ協定の国際交渉にあたり、その成立を可能にした背景にもう一つの世界に広がるエネルギー大転換の動きがありました。

①アメリカが京都議定書については国内の反対で参加しなかったのにどうしてパリ協定には積極的な姿勢に変わったかという点、シェールガスの恩恵を受けたためもあります。シェールガスとは頁岩（シェール層）から採取される天然ガスで技術的には採取困難であったものが2005年頃からアメリカで低コストの生産技術が確立されたことを受けて広まったものです。CO2排出量が減るため強力に温暖化対策推進に姿勢が変わったのです。

②EUでは、再生可能エネルギーが商業的に普及してきており、十分に経済的なエネルギーになっていることが挙げられます。

③中国では、世界のCO2の総排出量の28%を占めるまでに経済発展を遂げていますが、幸い近年風力発電が急増している国となっており、温暖化対策の推進国になってきました。

④インドでは、太陽光発電の爆発的増加を見込んでいますので、積極的に温暖化対策を推進することが期待されます。日本人1人でインド人6人分を排出しているのです。このような国がこれからも経済発展を望むのは当然のことでしょう。このようなエネルギー大転換の動きによってそれぞれの地域と国において温暖化瓦斯の排出を0にしていくという野心的目標までも考慮に入れる余地ができたのです。

（参考図書 「地球温暖化は解決できるのか」  
岩波新書 小西雅子著）

## 「白子川アユ放流大会」

鈴木千恵

(白子川と流域の水環境を良くする会)

5月連休最後の日曜日、白子川の中流域、和光市立第五小学校そばのわくわくパークに約150名の親子連れが集まりました。小さなバケツを手にした子どもたちは目を輝かせて楽しそうですが、一緒に付き添っているお父さんやお母さんも嬉しそうです。広場には観察用水槽にヌマチチブ、オイカワ、モクズガニ、クサガメ、そして天然のウナギを展示、すべて埼玉南部漁業協同組合の方が白子川の下流で捕獲したものです。

みんなが水槽を見たり川をのぞきこんだりしているうち、荒川で捕獲したアユの稚魚が到着、いよいよアユの放流です。キラキラ光る小さなアユの稚魚をバケツに入れてもらい、子どもたちは並んで川岸へ下り、やがてみんなで一斉に放流。しばらくは川に入ったアユの泳ぐ姿に見とれていました。

わくわくパークのアユの放流は今年で4年目、今回は約3000匹放流しました。アユは東京湾から新河岸川を通過してさかのぼり白子川に入ってくるのですが、東埼橋の下の1.6mの段差を上ることができないのです。昨年わくわくパークで放流したアユは秋には15センチくらいに成長しました。白子川のそばを通ることがあったら、ぜひ川を覗いてみてください。



## 「大地自然から湧き出る智慧」

佐藤 妙泉

(NPO法人和光・風の里)

和光市での市民活動経験を生かした形で、総務省が推進する高野町地域おこし協力隊として霊峰高野山に赴任して1年2ヶ月。おもな業務として寺内町の伝統産業のPRを担当しています。休みの日には山ろくの里に下り、農業を手伝ったりすることもあります。野菜がとてとても美味しく、自然に、ほぼ菜食になってしまいました。無農薬で作っている農家さんも複数軒あります。

さて、高野山に暮らす理由の一つに、日本で唯一密教学を学べる高野山大学に通いたかったということが大きくあります。現在、修士課程2年生です。僧籍も取得することになり、「妙泉」という僧名を頂きました。この僧名は環境保全にも通じる「大地自然から湧き出る智慧」という意味があります。また、悟りの世界である「妙法蓮華」を表しています。

一日のスケジュールの例です。毎日5時に起きて朝の勤行に参加し、7時半に小学生の息子を学校に送り出し、午前中は大学の講義に出て、学食でランチを食べ、午後から仕事。6時前には息子を小学校内にある学童クラブまで迎えに行き、帰宅して地元野菜を中心にした食材で夕ごはんをつくって食べます。わが家で、密教の勉強会兼夕食会をすることもあります。活動、研究、母親と三足のわらじで和光時代と同様に忙しい日々ですが、職住近接なので無駄なく時間が使えています。

協力隊の任期終了後は、無住となったお寺を活用するなどして、本格的に寺子屋をやってみようかと考えています。人間が生き活きと活動するための土台づくりができる、そんな「命」の寺子屋は、NPO法人和光・風の里が取り組んでいる「環境教育」の理念と変わらず同じです。

## イベントニュース

緑化まつり 2017

5月26日(金)～28日(日)

10時～15時

和光市サンアゼリア展示ホール・市民  
広場

主催 緑化まつり実行委員会

### 講演会

「新河岸川の水生生物の現状について」

講師 佐藤正康氏(埼玉南部漁業組合)

6月10日(土)

14時半～16時半

和光市中央公民館 会議室1

資料代 200円

主催 白子川と流域の水環境を良くする会

### 地方創生 中間報告会

「高野山の暮らしと文化について」

報告者 佐藤妙泉尼(佐藤麻由子)

6月10日(土) 15時30分～17時

和光市中央公民館3階視聴覚室

資料代 500円

※正会員は無料です

主催 NPO 法人和光・風の里

環境づくり市民会議はどなたでも歓迎です。  
会議は原則として第3火曜日午後、市役所  
会議室で開催しています。

(注)

今回は、下記のとおり外で行います。

6月20日(火) 14時～

場所 新倉北地域センター

自然環境マップ講演会について検討の後、  
周辺のフィールドワークを行います。

(雨天決行)

問い合わせ：事務局 (和光市環境課)

電話 048-464-1111

### (編集後記)

4月1日付けで、和光市市民環境部長と  
環境課長が新しく着任されたので、就任あ  
いさつをいただきました。市民会議でも峯  
岸正雄会長が再任、芝勝治副会長が新任し  
ました。

今号では、現会員のほか、元会員の中川  
善樹、佐藤麻由子、鈴木千恵さんからも寄  
稿いただき、8ページ建てとなりました。

本紙が和光市の環境づくりに関わる人達  
が自由に意見を交わし、発信する場として  
伝統を継承することができれば幸いです。

(編集子)